

病虫害発生予察情報

向こう1ヶ月(8月)の予報

平成24年度 予報第4号

東京都病虫害防除所

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

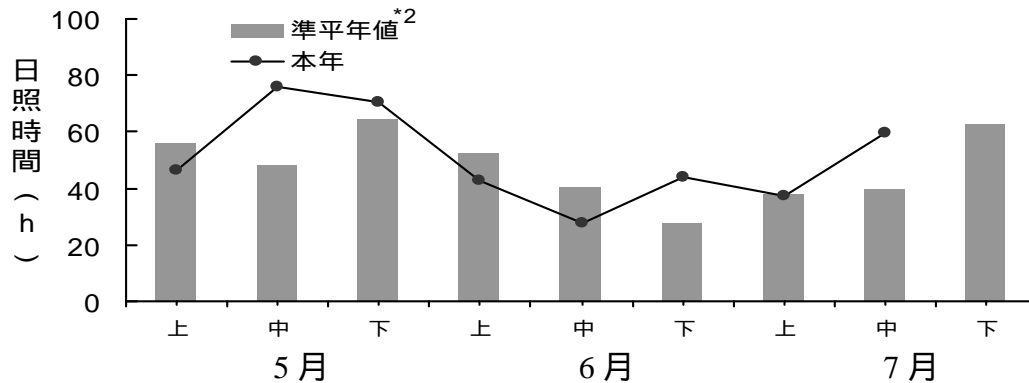
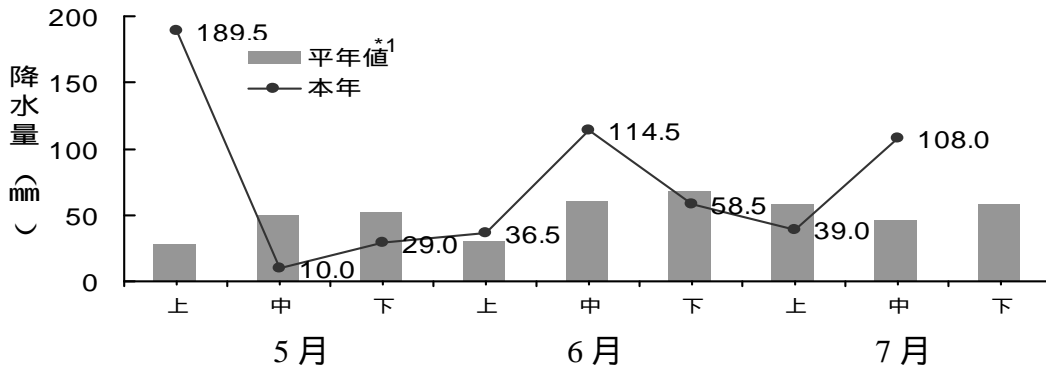
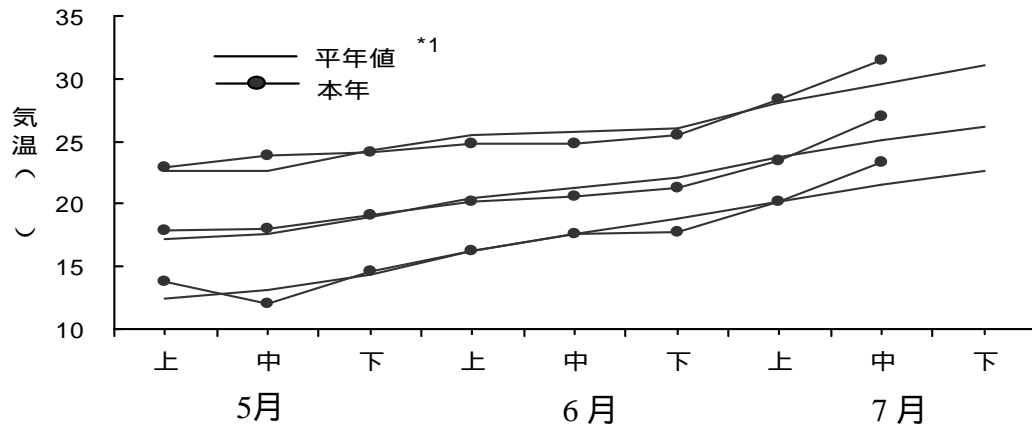
<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】平成24年7月27日 気象庁 地球環境・海洋部発表, 関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	20	40	40
	降水量	40	30	30
	日照時間	30	30	40

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値及び準平年値と本年の7月中旬までのデータを示した。
(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1 : 1981-2010 の平均値, *2 : 1987-2010 の平均値

引き続き果樹カメムシ類の発生に注意しましょう！

6月に続き、7月も予察灯及びフェロモントラップの誘殺数は多い傾向を示し、ブドウ、エダマメ及びキュウリなどへの飛来も確認されています。また、ナシやリンゴでは果実肥大が進むことから袋掛けの効果が低下します。圃場での発生を確認したら防除指針を参考に殺虫剤を散布しましょう！

トマト黄化葉巻病（TYLCV）の対策を徹底しましょう！

8月から9月はTYLCVの感染が最も多くなる時期です。特に促成長期どり及び抑制栽培では媒介虫であるタバココナジラミの発生に注意し、育苗期から防除を徹底しましょう。

【病害虫発生予報】（各根拠に記した()内記号は発生助長要因の強度を示す）

イネの病害虫

1. いもち病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、現在の発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 今後の天候に留意し、発生の拡大が見られるときには、ただちに防除指針に従い防除する。
- 2) 現在、葉いもちの発生が認められる場合には、今後の穂いもちの発生に十分注意する。

2. 紋枯病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

3. ニカメイガ（二化期）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 各地とも一化期の発生は確認できなかった。(-)
- 2) 巡回調査では、各地とも発生は認められなかった。(-)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら防除指針に従い薬剤を散布する。

4. セジロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査によるすくい取り調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 予察灯への誘殺数は、やや少ない。(-)
- 3) 発生消長からみて今後、増加期に当たる。(+)
- 4) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

5. 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ・アカヒゲホソミドリカスミカメ)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査による畦畔や休耕田でのすくい取り調査では、クモヘリカメムシはやや少なく、アカヒゲホソミドリカスミカメはやや多い。(+)
- 2) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数は、平年よりやや多い。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 畦畔や水田周辺の雑草の草刈りを行う。ただし、出穂前後 2 週間の間の除草は逆効果となるので注意する。
- 2) 防除指針に従い防除する。

果樹の病害虫

1. ナシのハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

2. 果樹共通 カメムシ類 (チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ)

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(+)
- 2) 巡回調査では、果樹以外でもエダマメやキュウリ等への飛来が確認されている。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 園内を見回り、早期に飛来状況を把握する。
- 2) 飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

茶樹の病害虫

1. チャノコカクモンハマキ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べ多い。(+)
- 2) 8月は減少期に当たる。(-)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。
- 2) 年間の発生活消長によると3世代目の発生ピークをむかえるため、今後の発生状況に注意する。

2. チャハマキ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べやや少ない。(-)
- 2) 8月は減少期に当たる。(-)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。

3. チャノホソガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年並である。(±)
- 2) 年間の発生活消長では今後減少期に当たる。(-)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。

野菜の病害虫

1. サツマイモのコガネムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 予察灯への誘殺数は、アカビロードコガネは平年並、ドウガネブイブイはやや少ない。(±)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 幼虫の防除は防除指針に従い防除する。

2. ナスうどんこ病

予報内容

発生量 並
予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 栽培中期～後期にかけて多発する傾向がある(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

3. ナスのナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生量は少ない。(-)
- 2) 今後、増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら防除指針に従い防除する。

4. ナスのニジュウヤホシテントウ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 5月中、第一回の成虫発生は各地のジャガイモで少なかった。(-)
- 2) 巡回調査では、ナスの食害は少ない。(-)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 成虫・幼虫とも食葉による加害のみならず実も食害する。
- 2) 発生を見たら防除指針に従い防除する。

5. コマツナおよびカブの炭疽病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

6. アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 越夏量が多いと秋作アブラナ科野菜での発生が多くなるので放置作物は速

やかに処分する。

2) 作物ごとに、防除指針に従い防除する。

7. アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

予報内容

発生量 やや少 ~ 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、アブラナ科野菜での寄生は少ない。(-)
- 2) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べ少ない。(-)
- 3) ここ数年、7月下旬から急速に被害が増加してくる。(+)
- 4) 気象予報によれば、気温は平年並~高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 本種は幼苗を好んで加害し、その被害株は芯止まりとなる事が多い。
- 2) 発見が遅れ、初期防除が遅れると被害が大きくなる。
- 3) 育苗床における防除を徹底する。
- 4) キャベツ・ブロッコリー等の育苗床やダイコンを寒冷紗等でトンネル栽培をするなど、成虫の飛来を防止する。
- 5) 作物ごとに、防除指針のハイマダラノメイガの項を参照して防除する。

8. ネギ黒斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 7月の平均気温が高いとその後の発生量が多くなる傾向にある。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並~高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

9. ネギ類のネギハモグリバエ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並~高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

10. ネギ類のネギアザミウマ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は多い。(+)
- 2) 年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並~高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

1.1. エダマメのシンクイガ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生量は少ない。(-)
- 2) 年間の発生消長から見ると、今後増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) さや表面の食害痕および排出糞に注意する。
- 2) 晩生品種ほど被害が大きい。
- 3) 防除指針に従い防除する。

1.2. エダマメのカメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、ホソヘリカメムシの発生はやや多く、チャバネアオカメムシ発生は多い。(+)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 子実を吸汁することにより奇形莢や変色粒を発生させる。
- 2) 防除指針に従い防除する。

1.3. 野菜共通 ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べ少ない。(-)
- 3) 年間の発生消長から見ると、今後増加期に入る。(+)
- 4) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら作物ごとに防除指針に従い防除する。

1.4. 野菜(果菜類)共通 コナジラミ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地ともオンシツコナジラミの発生はやや少なく、タバココナジラミの発生は少ない。(-)
- 2) 年間の発生消長からみると、今後はタバココナジラミの増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 圃場周辺の除草を徹底する。

- 2) 施設開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを張りコナジラミ類の侵入を防ぐ。
- 3) 施設では、育苗中を含め、黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の発生状況を監視する。
- 4) タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。ウイルスに感染した苗は発見次第、直ちに処分する。
- 5) 都内ではバイオタイプ Q のタバココナジラミが多いため、タイプ Q に有効な薬剤で防除指針に従って適正に防除する。

15. 野菜（果菜類）共通 オオタバコガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査でのトマトの寄生株率は 2.1% と少ない。(-)
- 2) フェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べ少ない。(-)
- 3) 今後、増加期に当たる。(+)
- 4) 気象予報によれば、気温は平年並～高い、降水量は少ない、日照時間は多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 果菜類の比較的幼果や若い果実を好むので排泄糞に注意する。
- 2) 被害果を放置せず、速やかに処分する。
- 3) 果菜類のほか、キャベツ・レタス・サヤインゲン・バラ・キク・カーネーションなどにも寄生する。
- 4) 防除指針を参考にして防除する。

インターネット上の防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

病虫害の発生予報、発生状況、防除方法などをお知らせしています。

前号（予報第 3 号）において、斑点米カメムシ類の種類の表記に誤りがありましたので訂正いたします。

（誤） アカホソヒゲカスミカメ

（正） アカヒゲホソミドリカスミカメ

農薬に関する詳しい情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>）